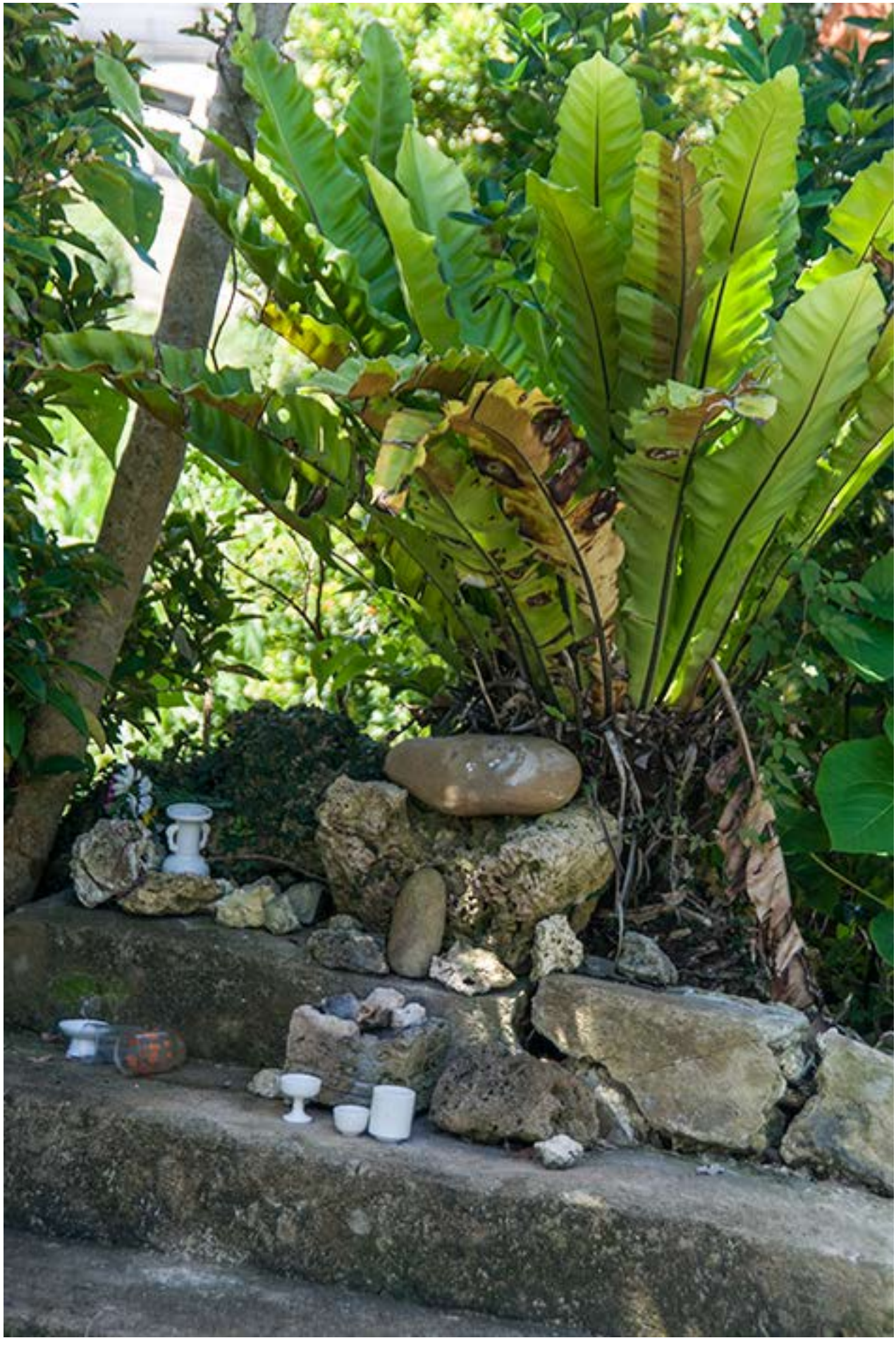
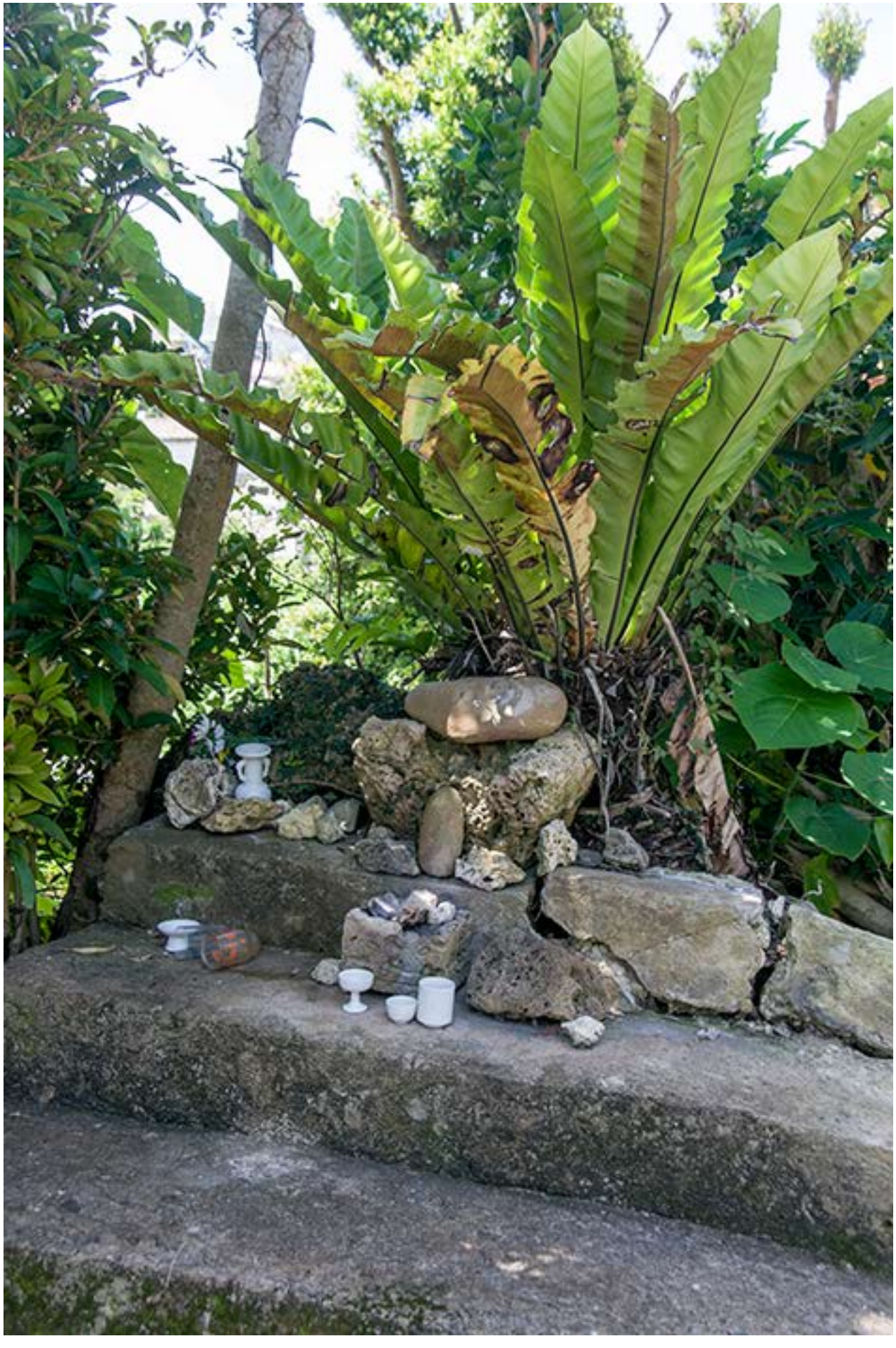




波平宮

イビ神
イビ神

イビ神
平成二十四年十一月二十九日建立
イビ神

漢那の馬ガー

馬川

漢那貝塚　漢那の神アシャギ
この一帯には、沖縄貝塚時代末期からグスク時代
（十二～十六世紀頃）にかけての土器・石器・中国
産磁器が採取される。そのことから当時すでに漢那
には人が住んでいたと考えられる。その貝塚を残し
た人々が私たちの直接の先祖に当たるのか不明だが、
漢那の発祥を知るには重要な遺跡である。
神アシャギは、主に山原から奄美にかけて分布す
る祭祀施設である。太平洋戦争前には漢那の神アシ
ャギは、アワ石の柱に茅葺きの屋根で作られていた。
そこでは、ノロを中心に神人らによって農業の祭り
が行われていた。これら文化財は村の歴史的遺産と
して、現在に伝えられている貴重な文化財である。
一九九四年　宜野座村教育委員会

ゆいこ
市田
そうへい
日本共産党沖縄県委員会

漢那祝女殿内

祝女殿内とは、「祝女火の神」を祀った祠の事で、琉球（首里）王府から神職（神役）を任命された祝女が王の安泰を祈願した場所です。また、祝女火の神は、村の台所を表す「カマド」であり、村が豊かになるように豊作・豊年を祈願する場所でもありました。

宜野座村地域には、漢那祝女と宜野座祝女が居り、漢那祝女は漢那村（現・漢那区）と惣慶村（現・惣慶区）の祭祀を司っていた為、漢那祝女火の神の祭祀は、漢那村だけでなく惣慶村の神職者も参加し、神酒を献上しました。

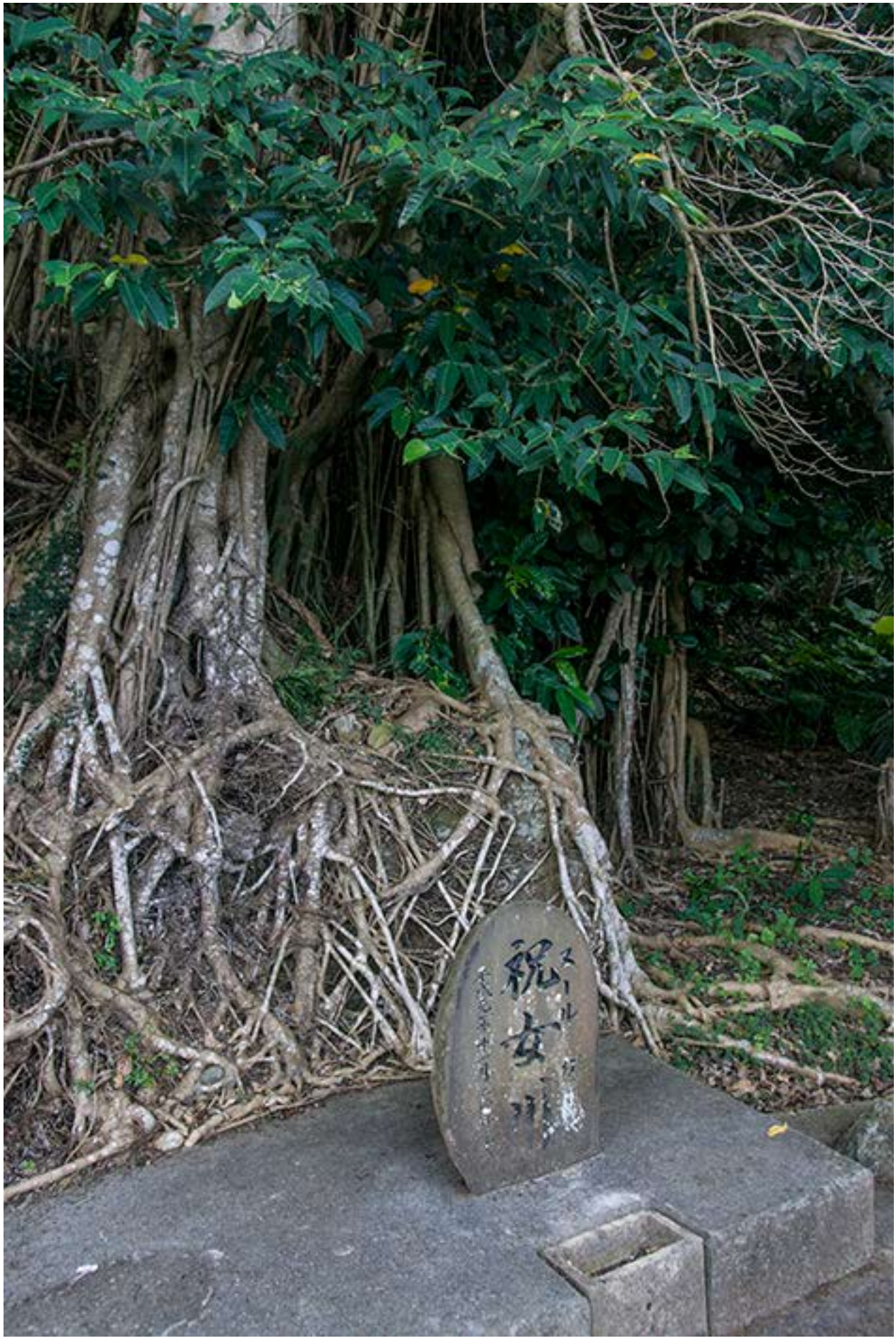
かって、漢那祝女殿内で行われた村の祭祀は、様々な理由（疫病・移民・戦争など諸説あり）により、何度か祝女出自家の消滅の危機がありましたが、現在、祝女などの神職者は再興されています。

漢那祝女殿内は、漢那の祭祀や儀礼を考える上で大切な場所（文化財）です。

※豊年祈願と踊りのようす

漢那区

祝女


祝女

漢那のヌールガー
漢那のヌールガーとは、東側丘陵の谷間から流れてきた水を引いた拝泉の事で、漢那の祭事には、ヌール（ノロ）がヌールガーで水浴びをして身体を清めていました。
ヌールガーの近くには、ヌールが髪を洗う時に泥をこねたという「タマチブ」と呼ばれる凹んだ石が残されています。
また、漢那では、旧暦の9月9日に先祖代々が恩恵を受けた御願・井泉の井泉拝みが大正7～8年頃まで各門中ごとに行われていました。
漢那のヌールガーは、古い集落の生活や祭祀を考える上で大切な場所（文化財）です。
国道329号線 至→
森
森（ウェーヌアタイ）
ヒージャガー
親水公園
公園駐車場
農村公園
・馬ガー
ウフガー
・ヌールガー
ランドマルチ
児童公園
海アシャギ
漢那の拝泉の位置
2010年 3月 漢 那 区

祝女川

ヨリアゲ森　水神の碑
ヨリアゲ森に祀られている神は「カワズカサノ御イベ」という名であることが
「琉球国由来記」(1713年)に記されている。
昔、天から下りる神は、高くそびえる森の木々、その木の下の草深い茂み、
森の中の清流などを好ましと考えられていた。このヨリアゲ森やヒーザー川の清流は、
神のお喜びになる場所として、古くから祀りが行われていたのである。
当時は上流に集落がなく清浄な水であったため、部落の水場として親しまれ、
豆腐製造や、その他の日常生活に利用され、絶えない水浴の風景は素朴な農村
生活を象徴する風情であった事から、この水で育まれた部落民は郷愁の念を寄せて
毎年旧正月には「川拝み」を行う事が古い習慣となっている。
宜野座村　水道発祥の地
ヒーザー川の水は飲料水として古くから利用されていたが、昭和13年
(1938年)に沖縄県の補助事業として　中流に小さな水源地を作り、
貯水タンクが建設され、そこから部落内に水道が配管され、着工から約3ヵ年の
歳月を経て　宜野座村でも初めて　水道事業が完成した。
この事業を後世に伝える為に残されたのが　この貯水タンクである。
漢　那　区

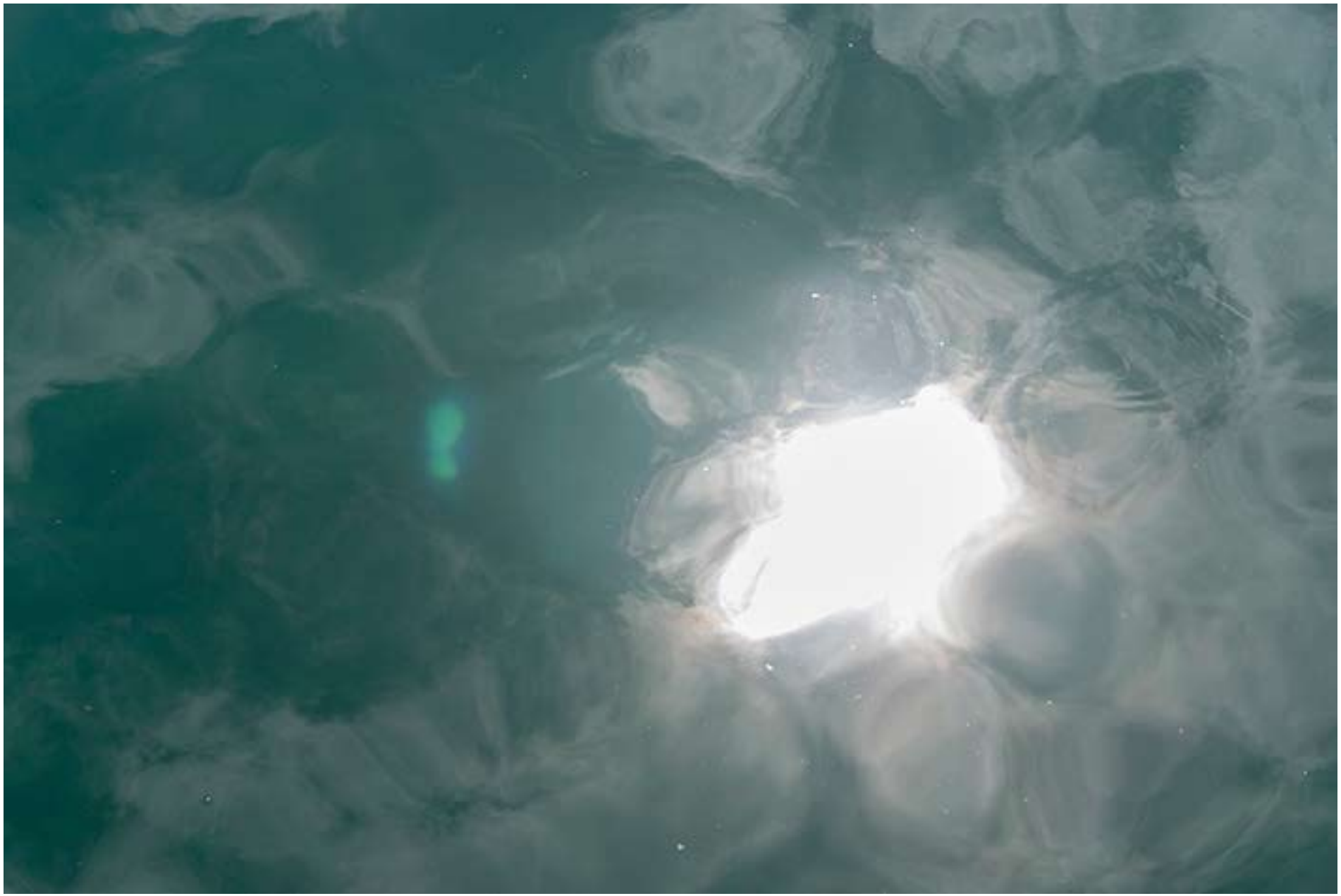
ウミーズスタイル遺跡

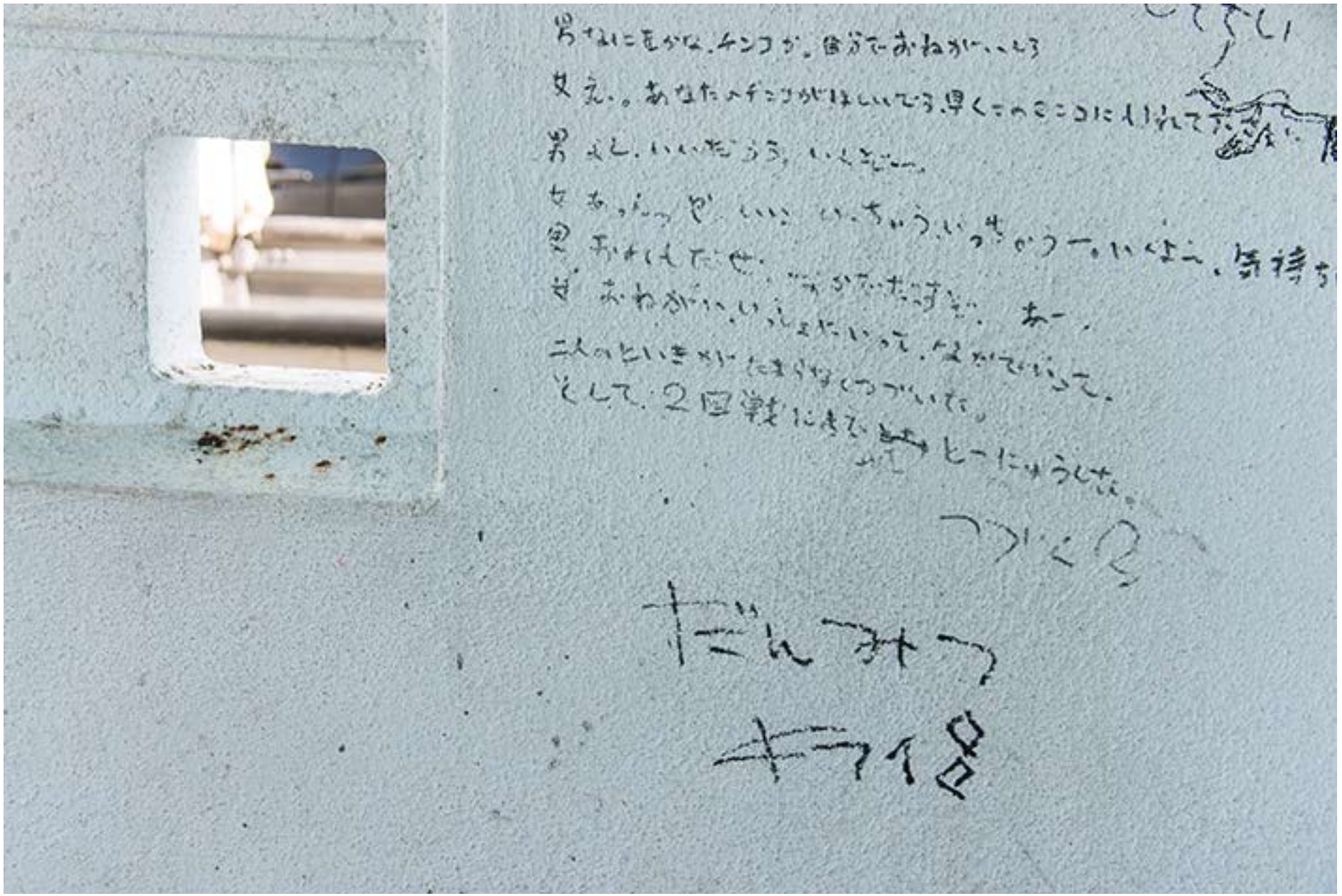
漢那ウェーヌアタイ遺跡
ウェーヌアタイ、または、タキ山とも呼ばれる
この森一帯は石灰岩丘陵に発達した石灰岩特有の
原生林を残し森全体が遺跡となっている。漢那区
では、聖地として崇めている。
一九八七年に村教育委員会が発掘調査を行なっ
た結果、沖縄の戦国時代とも言われるグスク時代
(A.D12~16世紀頃)から近世初頭にかけての遺
跡であると判明した。沖縄県で最初に発見された
約六〇〇年前の鍛冶場遺跡で、多量の中国産の焼
物と一緒に鍛冶場跡を物語る吹子の火口、鉄屑、
鉄鎧、農具の鍬、ナイフ等が出土した。
遺跡内は、洞窟が発達し岩陰を利用して風葬が
近代まで行なわれていた。集骨のため木製の大型
納骨厨子が安置され、その中にはグッチヤ按司な
る者も葬られていると云う。県下で注目される貴
重な文化財である。
宜野座村教育委員会

JK SPORTS

風葬墓
1912年頃に、渡那の屋号「仲二ーブ」の老婆が、当棺墓に
納骨されたのが一番新しい。その後は使用されなかったよう
である。木棺にまつわる伝承として、首里の奥方が重病にか
かり亡くなるまでに早急に木棺を作るように命じられ、その
後、完成して浜から運ばうとしたが、奥方が亡くなったと連
絡が入り、木棺は浜に放置された。それを、ウエヌアタイに
運んで使用したと云う。木棺は腐食が少なく、原形をととめ
ている。内部には、男女（？）の骨が無数に納骨されている
木棺の板の面に手斧の加工痕が観察され、釘を使用せずに丸
い板を組合せ、寄せ棟に作られている。

せんざい・かき氷
食堂
Coca-Cola




男 なにをかな。チンコか。自分でおねがいしろ
女 え。。あなたのチンコがほしいです。早くこのそこに入れて下さい。
男 よし。いいだろう。いくぞー。
女 あっんっ や いい いっちゃう いっちゃうー。いくよー。待ち
男 おれもだせ。
女 おねがい いっしょにいって。なかでいって。
二人のといきがたまらなくつづいた。
そして。2回戦にきたいと ヒーにいうした。
つづく?
だいみつ
キライ